

3・11東日本大震災、福島第一原発の重大事故から8年

フクシマを忘れない！ ひろげよう脱原発！ 2019年 3・10長野行動

原発被災者・避難者
への支援継続を！

どなたでも自由に
参加してください

- ☆原発なくせの願いを声に！
- ☆みんなの思いを行動に！
- ☆一緒に歩きましょう！
- ☆フラカード、鳴り物大歓迎



集会日程

- 13:00 音楽ひろば
- 13:30 集会開始
- 13:40 福島からの
アピール
- 14:10 パレード

雨天決行

私たちは原発の再稼働に反対します。
原発に頼らない未来を子どもたちに！

3月10日(日)
13:00

長野市 南千歳公園



3・10長野行動
実行委員会

田澤洋子 (026) 232-1560
本道多加子 090-7251-1912

電通が伊達市で行った「心の除染」

野池元基（『たあくらたあ』編集長）

福島県伊達市は、東京電力福島第一原発事故でひどく放射能汚染を受けた市町村の一つだ。当然、他の市町村と同様に、伊達市でも除染が行われた。しかし、他と違ったのは除染を途中でやめたことだ。市長は、国の除染基準（空間線量が毎時0.23 μSv ）は厳しすぎて実態に合わないという独自の見解を示し、「Cエリア」と区分した地域の安全宣言を行い、除染を放棄した。

当然、市民から反発が出た。勝手な判断で除染をやめないで、と。それに対する返答が「心の除染」だった。要は、もう安全は確保されているから、不安に思う心が問題で、除染すべきはその心だ、というのだった。そして、フォローアップ除染という名目で、市はCエリアを対象に「心の除染」を事業化した。請け負ったのは広告代理店・電通である。2万5千枚に及ぶ調査票が、事業の記録として残されている。4年前の事業だが、その中身は知られてこなかった。

では、どのような事業だったのか。市の説明では、「どんな不安があるのかアンケートをとり、不安解消のために戸別訪問をするなどして対応した」ということだった。情報公開によって開示された調査票には、住民への対応の生々しい記録が記されていた。これを読むと、実態はまるで違う。電通の下請け業者が電話対応や戸別訪問を行い、市の除染基準をもち出し、安全論を繰り出して、「除染はもう必要なし」という市の方針に住民を同意させていく。それをひたすら繰り返している。空間線量が0.23 μSv を超える場所が家の敷地内にいくつあっても、放射線管理区域に指定しなければならぬ0.6 μSv を超える場所があっても、「人体には影響なし」で押し通す。専門知識のない大半の住民は、不安を心の奥にしまい込み、疑問を持つこともあきらめさせられた。そう読める。こ



福島第一原発事故の後、放射線量を測定するため、伊達市が全市民に配布したガラスバッジ。

れが「心の除染」だった。

しかし、大いなる疑問が湧く。いつもは国に従順な自治体が、人口6万の小さな自治体である伊達市が、そもそもなぜ国の基準を無視できたのか。逆に、なぜ政府は伊達市の基準を黙認したのか。暗躍する誰かがいた、何か大きな力が働いていた、と考えたくもなる。現在、国の放射線審議会は0.23 μSv の基準を大幅に緩和しようとしている。その参考資料として、伊達市のガラスバッジ測定の結果が使われている。東京五輪までに原発事故アンダーコントロールという安倍政権のシナリオがあって、それに従って動いているようにみえる。伊達市は、その基準緩和のための踏み台にされたのではないか。

「心の除染」の次にくるのは「頭（脳みそ）の除染」では？ 国家の意に反し、原発事故を問題視するその思想が汚染されている、その思想を除染しなくては、と。もちろん、これを読んでいるような人はみんな当事者になる。フクシマを注視しよう。

小出裕章さん 市民講演会
原子力利用と原発事故が市民生活に与える影響

3月9日（土）14:00

長野県高校教育会館（長野市県町 593-7）
資料代：500円 事前に予約が必要です

主催：長野県保険医協同組合
電話 026-223-0345 FAX 026-223-0333

地域の底から、社会をつくる
ワーカーズ

『Workers 被災地に起つ』

3月9日（土）からロードショー
長野市・相生座 鑑賞券販売中
9日12時 森康行監督あいさつ

問合せ 企業組合労協ながの
電話 026-219-1190